

(第 12 号様式)

## 学 位 論 文 の 要 約 ( 研 究 成 果 の ま と め )

氏 名 細川 里瑛

学位論文名 日本の女子中学生におけるソーシャルメディアが  
体型不満に与える影響

---

### 学位論文の要約

摂食障害は精神疾患の中で死亡率が高く、予後が悪い疾患の一つであり、その早期発見と予防が重要である。また、摂食障害の発症に関わる因子として自身の体型への不満(体型不満)が存在することが知られている。摂食障害の発症を予防する観点から、本研究では、ソーシャルメディア、特に痩せを推奨する内容のメディアの利用が、思春期女子の体型不満に及ぼす影響について検討することを目的とした。方法として、2020年9月1日～10日、12歳から15歳の女子中学生447名を対象に、質問票調査を実施した。調査項目は、体型質問票、摂食態度検査票、エジンバラ過食症調査票、児童用うつ病自己評価尺度、フェイスシートにてソーシャルメディアの利用状況やその他体型不満にまつわる因子を追加した。また、同年6月の健康測定時の身長・体重を養護教諭より聴取し、BMIを算出した。調査の結果、質問票の回収率は、36.9%(165名)で、同意書の不備や支援級に在籍中の生徒を除外し最終対象者は161名であった。対象者は、体型質問票のカットオフスコア(80点)に基づいて、体型不満の有無により2群に分類された。統計解析においては、連続変数はShapiro-Wilk検定により正規性を確認後、t検定またはMann-WhitneyのU検定を実施、カテゴリー変数においては、X<sup>2</sup>検定またはFisherの直接検定による2群間比較を行った。最終的には、体型不満の有無を従属変数、その他調査項目を独立変数とし、多重ロジスティック回帰を行い、オッズ比を求めた。尚、本調査は、事前に愛媛大学医学部附属病院の倫理審査委員会での承認を受けて実施された。結果では、年齢や家族構成など背景データは、両群間で差は認めず、体型不満を有している群は、有さない群よりもBMIが有意に高かった( $p < 0.001$ )。また、摂食態度検査票、エジンバラ過食症調査票、児童用うつ病自己評価尺度などの平均点も体型不満を有する群で有意に高かった。ソーシャルメディアの利用率は、体型不満を有する群で有意に高かった( $p = 0.032$ )。対象をソーシャルメディア利用者のみで解析したところ、痩身を推奨するアカウントのフォロー率が、体型不満を有する群で有意に高かった( $p = 0.05$ )。その他、頻繁に使用す

る SNS の種類などに関しては、両群間で差は認めなかった。多重ロジスティック回帰において、BMI(adjusted OR=1.22、95%CI : 1.02-1.45)、エジンバラ過食症調査票症状尺度(adjusted OR=1.55、95%CI : 1.30-1.85)、放課後の運動活動(adjusted OR=0.31、95%CI : 0.11-0.87)が体型不満と関連する項目として残り、中でも痩身を推奨するソーシャルメディアのフォローは、最も高いオッズ比を認めた(adjusted OR=3.82、95%CI : 1.05-13.89)。本研究では、日本の思春期女子における体型不満の関連因子について調査し、ソーシャルメディアアカウントが女子中学生の体型不満に大きな影響を及ぼすことがわかった。影響に焦点を当てた研究は、日本では今回が初めてである。また、女性の痩身願望は、周囲の仲間の影響を受けるため、ソーシャルメディアは痩身への興味を持つ集団と気軽に、際限なく繋がりを持ってしまうため、より体型不満の悪化を促しやすいと考えられた。本研究の限界としては、横断研究であり、今後縦断調査を行うことで、ソーシャルメディアと体型不満の関係についてより明らかにしていきたい。尚、この学位論文の内容は、以下の原著論文に既に公表済みである。

主論文 : Hosokawa R, Kawabe K, Nakachi K, Soga J, Horiuchi F, Ueno SI: Effects of social media on body dissatisfaction in junior high school girls in Japan. *Eat Behav.* 2022 Nov 23;48:101685. doi: 10.1016/j.eatbeh.2022.101685. Epub ahead of print. PMID: 36512901.